

<鈍い心に寄り添うイエスさま>

マルコ6：45～56



5つのパンと2匹の魚で5千人以上の人々が満腹に食べた。
余ったものが12かごに一杯。 人びとは驚き、興奮！

人々が自分(イエス)を王とするために、むりやり連れて行こうとしているのを知って、
ただひとり、また山に退かれた。 ヨハネ6：15

人の称賛は、本来の目的を見失わせてしまうことがある。サタンは巧妙。
イエスさまは、ご自身の関心を神に集中させた。そして一人祈るために山へ退いた。

一方弟子達は…。波風に翻弄され、舟は行く先を見失っていた。

イエスは、弟子たちが、向かい風のために漕ぎあぐねているのをご覧になり

近くにイエスさまはいない。けれど見ておられた。知っておられた。
しかし、弟子達の心は鈍かった。

弟子たちは、イエスが湖の上を歩いておられるのを見て、幽霊だと思い、叫び声をあげた。【49節】

イエス様が来てくださった！ とは思わなかった。思えなかった。
偉大な奇跡に感動し驚いても、未だ自分の世界観で生きていた。

というのは、彼らはまだパンのことから悟るところがなく、その心は堅く閉じていたからである。

【52節】

「パンの奇跡」からまだ1日も経過していないのに！
不可能が可能になった瞬間に立ち会い、そのパンや魚を配ったのは弟子達自身だった。
なぜ「きっこうなる！」と期待できなかつたのか…。自分の信仰とも重る。

一括！ 「しっかりしなさい。わたしだ。恐れることはない」
イエスさまの方から、舟に乗り込んできてくださった。

舟に乗り込まれると、風はやんだ。【51節】
突風を静め、荒波を静め、不安や恐怖を一瞬にして吹き飛ばされた・

彼らが舟から上がると、人々はすぐにイエスだと気がついて、そのあたりをくまなく走り回り、
イエスがおられると聞いた場所へ、病人を床に載せて運んで来た。イエスが入って行かれると、
村でも町でも部落でも、人々は病人たちを広場に寝かせ、そして、せめて、イエスの着物の
端にでもさわらせてくださるようにと願った。 【54～56節】

◆病気や、経済の貧困からの解放など「パンの問題」からの救いは求めるが、
神から離れたまま生きる「罪」からくる滅びの問題の解決には関心がない。
人を生かすことのできる「いのちのパン」には無関心。

「癒し」を求めるけれど「神」を求めてはいない。